

先端技術動向

第21回アジア獣医師会連合大会〔FAVA〕並びに 第40回日本獣医師会獣医学術学会年次大会に参加して

開催日：令和4年11月11～13日

参加方法：現地開催による参加

参加報告者：盛岡種雄牛センター 太田 起一

家畜改良技術研究所 技術開発部 加藤 風

1. はじめに

畜産分野における ICT（情報通信技術）や家畜伝染病対策の研究発表が数多くあり、これらの情報に関して、防疫対策や情報技術の大きな手助けになると思われるため、今学会に参加し調査した。

2. 概要

・黒毛和種の飼養管理と疾病について（宮城県農業共済組合 松田）

黒毛和種の輸送ストレスが起これば、血液検査において血清コルチゾールの増加、血中ビタミン A の減少、血糖値の増加等が確認される。牛は外部からストレスを受けると、体内にあるビタミン A を消費されることが分かっている。また輸送時に、抗生物質等を打つことよりもビタミン A やビタミン E 等を含む経口投与剤を与えた方が輸送後の疾病が起こる割合が低くまた治療コストも大幅に減少したとの発表でした。

また黒毛和種の肥育期に濃厚飼料を多給することによってノコクズ肝と呼ばれる肝炎の症状が 19 カ月齢と 25 カ月齢に多く確認される。これはビタミン A 欠乏になる 19 カ月齢と濃厚飼料を多給することによるル

ーメンアシドーシスになっている 25 カ月齢のものではないかと推測されている。ルーメンアシドーシスを予防するためには藁などの粗飼料を与え、その後 1 時間程度経過してから濃厚飼料を与える。また藁の切断長は 5 cm 以上でなければ適切なルーメンマットを形成しづらいとの発表でした。

・気管支肺胞洗浄法による肺炎の診断と治療方針の決定（鹿児島大学 帆保誠二）

牛の肺炎は診断が難しく、基本的に診断は臨床症状と超音波の 2 つで実施される。また血液検査では肺炎感染牛で正常牛と比較して白血球の数値に大きな変化は見られにくい。内視鏡は肺炎の確定診断に用いられる。気管にリドカイン（麻酔）を入れ、気管支まで進め奥に行かなくなった場所に生食 30ml を入れてそれが洗浄液として分離培養に用いる事が可能になる。肺炎感染牛 50 頭の内肺胞洗浄液を分離培養した際に頭数の 100% で *P. multocida*, 50% で *M. bovis* が分離された。そのため治療を行うにはこの 2 つの対策を行うことが治療として効果があったと報告された。肺炎治療牛に対しての、抗生物質はキノロン系を第 1 次選択

薬とすることで効果が高いとの報告でした。
また現在 1 万 4 千頭の黒毛和種で肺炎の被害が見られ、その損害は 100 億円近いとさ

れるため、治療を最適に行う事がコストを抑えるために 1 番重要との発表でした。

報告日：令和 4 年 12 月 12 日